

アポイ岳 810.2m（北海道様似町） 個人山行報告 《大宮岳稜会》

日時: 令和5年(2023年)7月1日(土)日帰り(前日現地宿泊) 提出者> 簗島

メンバー: L 簗島 深谷 合計 2名

行程: 登山口 8:12...10:16 五合目小屋 10:42...馬の背 11:23...トラバース分岐 11:54...12:17 山頂 12:58...トラバース分岐 13:22...馬の背 13:48...14:17 五合目小屋 14:35...登山口 15:30

装備: ツエルト(簗島)、ヘッドランプ、雨具、防寒着、コンパス、地図、非常食、スマホ、クマ鈴、昼食、充電器

感想: アポイ岳はカンラン岩から成る。それは世界的にも珍しいそうだ。また、標高 800m 余りなのだが特殊な土壌条件による固有の高山植物が咲く。アポイ〇〇とか、様似町のサマニ〇〇とかの名前がつく植物が沢山あり、ユネスコ世界ジオパークに加盟している。

日本列島が梅雨前線の影響を受けている中、ここ北海道もやはり影響を受け天気は雨曇りマークであった。今回、山頂からの太平洋の素晴らしい眺めを見ることもなく、ガスの中、足元を黙々と見ながら、只々花を探しての登山となった。

しかしラッキーだったのは、アポイ岳の保護活動をしている地元山岳会のボランティアの方に出会った事だった。結局、五合目小屋から山頂の往復共、一緒に歩いてお花の名前、この山の地質等を教えていただいた。アポイ岳も他の山と変わらず年々お花が少なくなっているとのこと。この方は毎週土日アポイ岳に登って、盗掘等の山の監視をしているそうである。

天気には恵まれなかったが別の意味で中身の濃い山行となった。



襟裳岬から車で 30 分程



カンラン岩



アポイマンテナ